

「万国津梁」沖縄をめざして

研究会通信

第9号／2017年2月20日
「沖縄・国際物流拠点形成研究会」
(再開港湾研究会)

連絡先／民進党沖縄県連 〒900-0022
那覇市樋川 1-6-12 電話 098-996-5115

県民一致協力して 国際物流拠点形成の実現へ

- 『提言』の報告会を開きます。○
- ――2月25日(土)、那覇市で○

- ◆日時 2017年2月25日(土) 14時開場
14時半開会～16時半
- ◆会場 八汐荘(沖縄県教職員共済会館)
(那覇市松尾1-6-1 ☎867-1191)
- ◆主催 沖縄・国際物流拠点形成研究会
主宰・齋藤 勁(元衆議院議員)
花城正樹(民進党県連代表)
- ◆内容 ①『提言』のご報告(ご説明)
②基調講演: 沖縄ツーリスト(株)
東 良和会長
テーマ「地理的優位性を活かした
沖縄の観光経済の方向性」
③報告: 仮称「沖縄の家」構想
――中城湾港・志布志港の定期
航路の利用の拡充をめざして
④意見交換
- ◆参加申込みおよびお問い合わせ先
本研究会事務局・民進党沖縄県連
電話 098-996-5115 FAX098-996-5116

■実現すれば「万国津梁の家」に

報告会では、沖縄建設ユニオンから仮称「沖縄の家」構想の準備状況を報告していただきます。中城湾港と鹿児島県志布志港の定期航路(週一回運航)が開設されて一年。同ユニオンは「南九州から材を沖縄に移入して、沖縄で、亜熱帯の気候風土に適し、台風に強い本格的な木造の家を考案、設計して県内に広げるだけでなく、東南アジアにも輸出したい」として、「沖縄の家」の設計に取り組んでいます。南九州の材を定期航路を利用して志布志港から沖縄に移入し、沖縄で製作した家のパーツを東南アジアへ輸出するとなると、さながら「万国津梁の家」となります。関係先から注目され、期待が寄せられています。

■クルーズ拠点港に本部港、平良港

国土交通省は、クルーズ船による訪日観光

客を増やすため、港湾管理者の地方自治体と船の運航会社が共同で施設整備を進める拠点港として、この2月、横浜(神奈川) 清水(静岡) 佐世保(長崎) 八代(熊本) 本部(沖縄) 平良(同)の6港を選定しました。そのためクルーズ船の岸壁整備計画に関連して今国会に港湾法一部改正案が提出されます。

難波奨二参議院議員では、この計画について先日、国交省から説明を受けました。とくに本部港は、やんばるの世界自然遺産登録に向けて整備を急がなければなりません。

同時に、クルーズ船寄港に関しては、経済、環境、交通、観光など様々な観点から見ていかなければなりません。

■停泊中の船舶に陸上から送電

クルーズ船が大型化すれば、環境との関連で、新たな問題が生じています。汚物の海洋投棄、港に接岸・停泊中には船舶の生活電力のためエンジンを動かし続けなければなりません。船舶は粗悪なC重油を使っていることもあってCO₂の大量排出で環境問題となっています。ちなみに奄美大島では環境汚染が問題となり、クルーズ寄港計画がとん挫しています。そこで停泊中の大型クルーズ船はエンジンを止め、陸上から送電する計画(船舶版アイドリングストップ/図参照)が試みられ、国交省では6年前に北海道・苫小牧港で陸送電の実証実験をし、現在、検討中です。



沖縄は自然と共生した港湾の整備が課題です。沖縄が、陸送電の先鞭を成せば、国内どころか、世界的にも注目されることとなります。沖縄での陸送電に期待したいものです。

◆◆◆◆◆